

令和7年度 第1回 住吉区地域福祉専門会議 会議要旨

- 1 日時 令和7年6月19日（木） 午後6時から午後8時
- 2 場所 住吉区役所 4階 第4・5会議室
- 3 出席者
(委員)
西田委員、藤本委員、松岡委員、殿井委員、尾畑委員、濱本委員、三橋委員、宮川委員、山下委員
小野アドバイザー
(区役所他)
区長、副区長、関係課長、課長代理、担当係長、住吉区社会福祉協議会 事務局長、地域支援担当係長
- 4 議題
【報告】
(1) 住吉区地域見守り支援システム進捗状況について
(2) 地域座談会の開催状況について
(3) 住吉区地域包括支援センター運営協議会報告について
【議事】
○「住吉区地域福祉ビジョン Ver. 3.0」において重点的に取り組むべきこと」について、第3回地域福祉専門会議でいただいたご意見に対する重点取組事項（案）について
【その他】
○「つながり・みまもり・支えあいシステム」別紙について
- 5 議事要旨等
【報告】
(1) 住吉区地域見守り支援システム進捗状況について
・別添資料1のとおり
(2) 地域座談会の開催状況について
・住吉地域 令和7年3月21日 万領会館にて開催 35名参加
参加した委員の意見…6年ぶりの開催でメンバーも変わった。一からのやり直しになるが、若い方からの意見も多く良かった。
・長居地域 令和7年3月7日 長居連合会館にて 33名参加
(3) 住吉区地域包括支援センター運営協議会報告について
・令和6年度第3回の報告
・複合課題（いわゆる8050など）に対する取り組みとして、区単位でも包括単位でも、障がい者等の支援機関とのネットワークを強化していく。
→ 研修等で支援者間の相互理解を深める等
・高齢者の金銭管理の課題について、早い段階でそれぞれの支援者の役割分担を行う。あんしんサポート事業については、うまく稼働しておらず、市域レベルでの課題である。
・今年度第1回運営協議会開催済み。それぞれの包括・ブランチにて、この内容に則した計画を策定している。
【小野アドバイザーより】
・「増進型地域福祉とは何か」について説明 ※別添資料参照
【社会福祉協議会松尾事務局長より】
・地域座談会について補足説明
・住吉地域は町会が多いが、お互いの活動を実はあまり知らない、というところから、そのような内

容の座談会となった。どのように後継者を見つけるか、どのように活動を知ってもらい、新しい参加者を増やせるか等話しが出た。

- ・清水丘地域は、高齢者支援について、高齢者だけの問題ではない、家族の問題、世代間交流の問題というところに話が展開した。
- ・苅田南地域は、コロナ禍で（開催が）開いてしまった。どうすれば若い方に参加してもらえるかという話が出た。
- ・山之内市域は座談会を経て、アクションの段階に入っている。大和川中学校の中学生 300 人に、地域のことについてアンケートを行い、子どもたちの声を地域で受け止めようという取り組みを行った。見守りイベントも毎年行われ、まさしく動き続けている。

【議事】

「住吉区地域福祉ビジョン Ver. 3.0」において重点的に取り組むべきこと」について、第3回地域福祉専門会議でいただいたご意見に対する重点取組事項（案）について

主な意見

- ・大和川中学校のアンケートから、頼りになるたくましい中学生がたくさんいると認識した。山之内では大和川中学校、建国中学校、浪速中学校の3中学が情報交換することで、何か生み出せたら。
- ・地域座談会からアクションに移るところが難しい。アクションに至らない地域に何か共通の要素があるのでは。
- ・地域の担い手、協力者をいかに広げるかが課題。地域によって課題やテーマが異なるため、どういった方に入っていただくのが良いのか、今の地域座談会で意見を聞くのがスムーズでは。
- ・地域座談会に誰を呼ぶかという議論はあるが、とりあえず集まれる人間だけ集まろうとなった。次は、若い世代や子育て世代に入ってもらって意見を聞きたい。
- ・地域座談会とは異なる集まりもあるが、いつも同じメンバーになるため、話に発展がない。もっと若い人に参加してもらい、新しい意見が聞けたら。
- ・参画者を増やすには、地域や町のことを気にしている、好きという人の集まりでないと進まない。
- ・地域住民だけでなく、商店や企業、銀行などの企業体も社会資源として協議していく。社会福祉法人や病院などの専門職集団の立場から、（地域の活動へ）参画しやすいアイデアはないか。
- ・医療は問題解決型の職種の典型。治療が終わったその先の、福祉実現まで行くことは難しい。医者がこの話を理解するのは難しい。一方で訪問診療を専門にしている先生は増えており、地域医療に特化した先生であれば、理解があるのではないか。
- ・地域包括支援センターは地域の方々と、事業所、施設とのつながりづくりに関わっていく必要がある。つなぎ役という役割であるので、座談会でこういう話し合いをするからこういうメンバーを呼んでほしいということがあれば、情報提供できる。
- ・社会福祉法人としては、必要とされていて役割があって呼ばれるほうが、参加しやすい。
- ・役割や立ち位置が見えないと、二の足を踏んでしまう人もいると思う。参加者を集める工夫としては必要。
- ・ボランティア人材に新たな参画者が少ないという研究で、参加しなかった理由に「誘われなかったから」という意見が最も多かったとのこと。「これ募集します」という広報ではなかなか矢はあたらない。「あなたに来てほしい」という情報を手渡しで届けるほうが良い。

【報告】

「つながり・みまもり・支えあいシステム」別紙について

主な意見

- ・地域と専門職の間にやはり大きな隔りがある。
- ・「困りごと」となると今日の話と離れてしまう。「専門職との連携」から「より包括的な連携」の間に、何か「増進型」のキャッチーな文言があれば良い。
- ・ふれあい喫茶や子育てサロンは、困っているから行くわけではない。情報を取りに行ったり、人とつながりたいと思っているという要素を入れてはどうか。

6 令和7年度の開催日程について（予定）

第2回	令和7年 10月 30日（木）	午後6時から
第3回	令和8年 2月 19日（木）	午後6時から